

4. 奈良県外来種リスト

(1) 定着種

■哺乳類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
哺乳綱 食肉目	イヌ科	イヌ(ノイヌ)	<i>Canis familiaris</i> (Linnaeus, 1758)		総合重点		●	1990年代半ばには、春日山原 始林にてシカを狩っていた。
哺乳綱 食肉目	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i> (Linnaeus, 1758)	●	総合緊急	●		県北西部での棲息が確認されて いたが、近年は全域に拡大しつ つある。
哺乳綱 食肉目	イタチ科	チョウセンイタチ	<i>Mustela sibirica</i> (Pallas, 1773)			●		奈良県内全域で分布域を拡大 している。
哺乳綱 食肉目	ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i> (Smith, 1827)		総合重点	●		
哺乳綱 食肉目	ネコ科	イネネコ(ノネコ)	<i>Felis catus</i> (Linnaeus, 1758)		総合緊急		●	
哺乳綱 齧歯目	ネズミ科	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i> (Berkenhout, 1769)		総合重点	●		
哺乳綱 齧歯目	ネズミ科	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i> (Linnaeus, 1758)		総合緊急	●		
哺乳綱 齧歯目	ネズミ科	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i> Linnaeus, 1758		総合重点	●		
哺乳綱 齧歯目	ヌートリア科	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i> (Molina, 1782)	●	総合緊急	●		奈良市内と宇陀市で駆除実績 がある。

■鳥類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
鳥綱 キジ目	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus</i> Linnaeus, 1758				●	狩猟鳥として放鳥されている。県 内には在来個体群も生息。
鳥綱 キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i> <i>thoracicus</i> (Temminck, 1815)			●		狩猟鳥として放鳥されている。
鳥綱 ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i> Gmelin, 1789			●		
鳥綱 スズメ目	チメドリ科	ソウシチョウ	<i>Lelothrix lutea</i> (Scopoli, 1786)	●	総合重点	●		各所に定着

■爬虫類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガ メ	<i>Trachemys scripta elegans</i> (Wied, 1839)		総合緊急	●		

■両生類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
両生綱 無尾目	アマガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i> (Shaw, 1802)	●	総合重点	●		

■魚類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i> Linnaeus, 1758				●	
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	ダンゴコウブナ	<i>Carassius cuvieri</i> Temminck and Schlegel, 1846				●	
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i> (Kner, 1866)		総合重点	●		

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	ワタカ	<i>Ischikaula steenackeri</i> (Sauvage, 1883)				●	
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	ハス	<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i> (Temminck and Schlegel, 1846)				●	
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i> (Valenciennes, 1844)		総合その他	●		
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleoecens</i> (Sauvage, 1883)				●	
硬骨魚綱 コイ目	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i> (Cantor, 1842)			●		中国産
硬骨魚綱 コイ目	ドジョウ科	オオガタスジシマド ジョウ	<i>Cobitis magnostriata</i> Nakajima, 2012				●	
硬骨魚綱 サケ目	キュウリウオ科	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i> McAllister, 1963				●	
硬骨魚綱 サケ目	サケ科	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i> (Walbaum, 1729)		産業管理	●		
硬骨魚綱 サケ目	サケ科	アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i> Jordan and McGregor, 1925				●	飼育品種。奈良県下では在来の個体群も存在する。
硬骨魚綱 タウナギ目	タウナギ科	タウナギ	<i>Monopterus albus</i> (Zuiew, 1793)				●	
硬骨魚綱 カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i> (Baird and Girard, 1853)	●	総合重点	●		
硬骨魚綱 ダツ目	メダカ科	ヒメダカ	<i>Oryzias latipes</i> (Temminck and Schlegel, 1846) var.				●	飼育品種
硬骨魚綱 スズキ目	クツギョ科	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i> (Temminck and Schlegel, 1843)				●	
硬骨魚綱 スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i> Rafinesque, 1819	●	総合緊急	●		
硬骨魚綱 スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス(ノー ザンバス)	<i>Micropterus salmoides salmoides</i> (Lacepède, 1802)	●	総合緊急	●		下北山村池原ダムでは、フロリダバスとの交雑個体が確認されている。
硬骨魚綱 スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス(フロリ ダバス)	<i>Micropterus salmoides floridanus</i> (Lesueur, 1822)	●	総合緊急	●		
硬骨魚綱 スズキ目	サンフィッシュ科	コクチバス	<i>Micropterus dolomieu dolomieu</i> Lacépède, 1802	●	総合緊急	●		
硬骨魚綱 スズキ目	ハゼ科	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i> Katsuyama, Arai and Nakamura, 1972				●	
硬骨魚綱 スズキ目	タイランドジョウ科	タイランドジョウ	<i>Channa maculata</i> (Lacepède, 1801)				●	
硬骨魚綱 スズキ目	タイランドジョウ科	カムルチー	<i>Channa argus</i> (Cantor, 1842)				●	

■昆虫類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
昆虫綱 シミ目	シミ科	セイロウシミ	<i>Lepisma saccharina</i> Linnaeus, 1758				●	
昆虫綱 ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i> Serville, 1839				●	
昆虫綱 ゴキブリ目	チャバネゴキブリ 科	チャバネゴキブリ	<i>Blattella germanica</i> (Linnaeus, 1767)				●	
昆虫綱 バッタ目	マツムシ科	アオマツムシ	<i>Tritalia hibinonis</i> (Matsumura, 1917)				●	
昆虫綱 バッタ目	ヒバリモドキ科	ウスグモスズ	<i>Metiochodes genji</i> (Furukawa, 1970)				●	
昆虫綱 バッタ目	オンブバッタ科	アカハネオンブバッ タ	<i>Attractomorpha sinensis sinensis</i> Bolivar, 1905				●	
昆虫綱 チャタテムシ目	コナチャタテ科	ヒラタチャタテ	<i>Liposcelis bostrychophila</i> Badonnel, 1931				●	
昆虫綱 アザミウマ目	アザミウマ科	アリガタシマアザミウ マ	<i>Frankliniopsis vespiformis</i> (Crawford D.L., 1909)				●	
昆虫綱 アザミウマ目	アザミウマ科	ミカンキイロアザミウ マ	<i>Frankliniella occidentalis</i> (Pergande, 1895)				●	
昆虫綱 アザミウマ目	アザミウマ科	ハナアザミウマ	<i>Thrips hawaiiensis</i> (Morgan, 1913)				●	
昆虫綱 アザミウマ目	アザミウマ科	ミナミキイロアザミウ マ	<i>Thrips palmi</i> Karny, 1925				●	
昆虫綱 アザミウマ目	アザミウマ科	ネギアザミウマ	<i>Thrips tabaci</i> Lindeman, 1888				●	
昆虫綱 アザミウマ目	クダアザミウマ科	カキクダアザミウマ	<i>Ponticulothrips diospyrosi</i> Haga et Okajima, 1983				●	
昆虫綱 カメムシ目	アブラムシ科	セイタカアワダチソウ ヒゲナガアブラムシ	<i>Lroileucon nigrotuberculatum</i> (Olive, 1963)				●	

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
昆虫綱 カメムシ目	コナジラミ科	オンシツコナジラミ	<i>Trialeurodes vaporariorum</i> (Westwood,1856)			●		
昆虫綱 カメムシ目	コナジラミ科	タバココナジラミ	<i>Bemisia tabaci</i> (Gennadius,1889)			●		バイオタイプB, Q
昆虫綱 カメムシ目	コナジラミ科	ミカントゲコナジラミ	<i>Aleurocanthus spiniferus</i> (Quaintance,1903)			●		
昆虫綱 カメムシ目	コナジラミ科	チャトゲコナジラミ	<i>Aleurocanthus camelliae</i> Kanniya & Kasai,2011			●		
昆虫綱 カメムシ目	ワタフキカイガラムシ科	イセリアカイガラムシ	<i>Icerya purchasi</i> Maskell,1878			●		
昆虫綱 カメムシ目	コナカイガラムシ科	ナスコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus solani</i> Ferris,1918			●		
昆虫綱 カメムシ目	カタカイガラムシ科	ルビーコウムシ	<i>Ceroplastes rubens</i> Maskell,1892			●		
昆虫綱 カメムシ目	カタカイガラムシ科	マンゴーカタカイガラムシ	<i>Milviscutulus mangiferae</i> (Green,1889)			●		
昆虫綱 カメムシ目	マルカイガラムシ科	ヤノネカイガラムシ	<i>Unaspis yanonensis</i> (Kuwana,1923)			●		
昆虫綱 カメムシ目	アメンボ科	トガリアメンボ	<i>Rhagadotus kraepelini</i> Breddin,1905			●		生駒市、奈良市
昆虫綱 カメムシ目	グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i> (Uhler, 1878)			●		
昆虫綱 カメムシ目	グンバイムシ科	ブラタテスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i> (Say,1832)			●		
昆虫綱 カメムシ目	グンバイムシ科	ヘクソカズラグンバイ	<i>Dulinius conchatus</i> Distant,1903			●		
昆虫綱 カメムシ目	サシガメ科	ヨコヅナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i> (Signoret,1862)			●		
昆虫綱 カメムシ目	サシガメ科	アトジロサシガメ	<i>Yolimus albopustulatus</i> China,1940			●		平群町、奈良市
昆虫綱 カメムシ目	カメムシ科	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i> (Thunberg,1783)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	チビナガヒラタムシ科	チビナガヒラタムシ	<i>Micromalthus debilis</i> LaConte,1878			●		
昆虫綱 コウチュウ目	カツオブシムシ科	ハラジロカツオブシムシ	<i>Dermestes maculatus</i> De Geer,1774			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ヒラタキクイムシ科	アフリカヒラタキクイムシ	<i>Lyctus africanus</i> Lesne,1907			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ヒラタキクイムシ科	ヒラタキクイムシ	<i>Lyctus brunneus</i> (Stephens,1830)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	シバナムシ科	ジンサンシバナムシ	<i>Stegobium panicum</i> (Linnaeus,1761)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	シバナムシ科	タバコシバナムシ	<i>Lastoderma serricorne</i> (Fabricius,1792)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	コクヌスト科	コクヌスト	<i>Tenobroides mauritanicus</i> (Linnaeus,1758)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	カッコウムシ科	アカクビホシカムシ	<i>Necrobia ruficollis</i> (Fabricius,1775)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	カッコウムシ科	アカアシホシカムシ	<i>Necrobia rufipes</i> (De Geer,1775)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	チビヒラタムシ科	チビカムシチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes ferrugineus</i> (Stephens,1831)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ホソヒラタムシ科	フタトゲホソヒラタムシ	<i>Silvanus bidentatus</i> (Fabricius,1792)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ホソヒラタムシ科	ヒメフタトゲホソヒラタムシ	<i>Silvanus lewisii</i> Reitter,1876			●		
昆虫綱 コウチュウ目	キスイムシ科	ウスバキスイ	<i>Cryptophagus cellaris</i> (Scopoli,1763)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	テントウムシ科	ミスジキイロテントウ	<i>Bromoides ohtai</i> Miyatake,1970			●		
昆虫綱 コウチュウ目	テントウムシ科	ベダリアテントウ	<i>Rodoria cardinalis</i> (Mulsant,1850)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	テントウムシ科	クモガタテントウ	<i>Peylopora vigintimaculata</i> (Say,1824)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ガイマイゴミムシダマシ	<i>Alphitobius diaperinus</i> (Panzer,1797)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒラタククヌストモドキ	<i>Tribolium confusum</i> Jacquelin du Val,1868			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	チャイロコメノゴミムシダマシ	<i>Tenebrio molitor</i> Linnaeus,1758			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	コメノゴミムシダマシ	<i>Tenebrio obscurus</i> Fabricius,1792			●		
昆虫綱 コウチュウ目	カミキリムシ科	テツイロヒメカミキリ	<i>Cerestus sinicum</i> White,1855			●		
昆虫綱 コウチュウ目	カミキリムシ科	ホシベニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i> (Dalman,1817)				●	
昆虫綱 コウチュウ目	カミキリムシ科	ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i> (Saunders,1853)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ハムシ科	エンドウソウムシ	<i>Bruchus pisorum</i> (Linnaeus,1758)			●		

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
昆虫綱 コウチュウ目	ハムシ科	ゾウマメゾウムシ	<i>Bruchus rufimanus</i> Boheman, 1833			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ハムシ科	アズキマメゾウムシ	<i>Callosobruchus chinensis</i> (Linnaeus, 1758)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ハムシ科	ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i> L.c.Sage, 1986			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ 科	リタミヒゲナガゾウムシ	<i>Araecerus fasciculatus</i> (De Geer, 1775)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ 科	ナガフトヒゲナガゾウムシ	<i>Xyloda striatifrons</i> (Jordan, 1895)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゾウムシ科	アルファパンファタコゾウムシ	<i>Hypena postica</i> (Gyllenhal, 1813)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゾウムシ科	オオタコゾウムシ	<i>Hypena punctata</i> (Fabricius, 1775)			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゾウムシ科	ヤセイゾウムシ	<i>Listroderes cistirostris</i> Schoenherr, 1826			●		
昆虫綱 コウチュウ目	ゾウムシ科	イネミスゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i> Kuschel, 1951			●		
昆虫綱 コウチュウ目	オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus</i> <i>vanatus</i> Chittenden, 1904			●		
昆虫綱 ハチ目	ヒメバチ科	ルリトガリヒメバチ	<i>Chlorocryptus purpuratus</i> (Smith, 1852)			●		生駒山麓公園、平城宮跡
昆虫綱 ハチ目	タマバチ科	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i> Yasumatsu, 1951			●		
昆虫綱 ハチ目	セイボウ科	イラガセイボウ	<i>Chrysis shanghaiensis</i> (Smith, 1874)			●		
昆虫綱 ハチ目	アリ科	ヒゲナガアメイロアリ	<i>Paratrechina longicornis</i> (Latreille, 1802)			●		
昆虫綱 ハチ目	アリ科	イユヒメアリ	<i>Monomorium pharaonis</i> (Linnaeus, 1758)			●		
昆虫綱 ハチ目	クモバチ科	ツマアカクモバチ	<i>Tachypompilus analis</i> (Fabricius, 1781)			●		
昆虫綱 ハチ目	アゲバチ科	アメリカジガバチ	<i>Sceliphron caementarium</i> (Drury, 1773)			●		
昆虫綱 ハチ目	ミツバチ科	タイワンタケクマバチ	<i>Xylocopa tranqueharorum</i> <i>tranqueharorum</i> (Swederus, 1787)			●		橿原市
昆虫綱 ハチ目	ミツバチ科	セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i> Linnaeus, 1758			●		
昆虫綱 ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i> (Linnaeus, 1758)			●		
昆虫綱 ハエ目	ハモグリバエ科	マメハモグリバエ	<i>Liriomyza trifolii</i> (Burgess, 1880)			●		
昆虫綱 ハエ目	ショウジョウバエ科	キイロショウジョウバエ	<i>Drosophila melanogaster</i> Meigen, 1830			●		
昆虫綱 ハエ目	ショウジョウバエ科	オナジショウジョウバエ	<i>Drosophila simulans</i> Sturtevant, 1919			●		
昆虫綱 ハエ目	ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ	<i>Fannia canicularis</i> (Linnaeus, 1761)			●		
昆虫綱 ハエ目	チョウバエ科	オオチョウバエ	<i>Clogmia albipunctatus</i> (Wilston, 1893)			●		
昆虫綱 ハエ目	チョウバエ科	ホシチョウバエ	<i>Tinearia alternata</i> (Sey, 1824)			●		
昆虫綱 チョウ目	マルハキバガ科	コクマルハキバガ	<i>Martyniella veraulti</i> (Meyrick, 1910)			●		
昆虫綱 チョウ目	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida</i> (Cramer, 1777)			●		
昆虫綱 チョウ目	メイガ科	シバウトガ	<i>Parapediasia teterrella</i> (Zincken, 1821)			●		
昆虫綱 チョウ目	メイガ科	ノシメダラメイガ	<i>Plodia interpunctella</i> (Lübner, 1813)			●		
昆虫綱 チョウ目	ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i> (Drury, 1773)			●		
昆虫綱 チョウ目	ヤガ科	シロイチモジヨトウ	<i>Spodoptera exigua</i> (Hübner, 1808)			●		
昆虫綱 チョウ目	ヤガ科	イチジクヒトリモドキ	<i>Asota ilicus</i> (Fabricius, 1775)				●	
昆虫綱 チョウ目	ヤガ科	オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera</i> (Hübner, 1808)			●		

■その他無脊椎動物

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
節脚綱 苔甲目	カブトエビ科	アジアカブトエビ	<i>Triops granarius</i> (Lucas, 1864)			●		奈良市、大和郡山市、生駒市など26市町村において生息確認

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
節脚綱 甲虫目	カブトエビ科	アメリカカブトエビ	<i>Triops longicaudatus</i> (LeConte, 1864)			●		奈良市、香芝市、葛城市など8 市町において生息確認
軟甲綱 端脚目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i> Bousfield, 1963			●		大和川水系(奈良市、大和郡山 市)と淀川水系(奈良市)で生息 確認
軟甲綱 十脚目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i> (Girard, 1852)		総合緊急	●		大和川水系、淀川水系、紀ノ川 水系に広く分布
クモ綱 クモ目	ヒメグモ科	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i> Thorell, 1870	●	総合緊急	●		
クモ綱 クモ目	ウシオグモ科	クロガケシグモ	<i>Badumna insignis</i> (L. Koch, 1872)			●		
腹足綱 遊生腹足目	リンゴガイ科	スクミンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i> (Lamarck, 1819)		総合重点	●		香芝市、桜井市、橿原市などの 14市町村において生息確認
腹足綱 異鰓目	コハクガイ科	コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i> (Say, 1816)			●		
腹足綱 異鰓目	モノアラガイ科	ハブタニモノアラガ イ	<i>Pseudosuccinea columella</i> (Say, 1817)			●		大和川水系、淀川水系、紀ノ川 水系、新宮川水系に分布記録あ り
腹足綱 異鰓目	サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i> Draparnaud, 1805			●		奈良市、生駒市、天理市などで 生息確認
二枚貝綱 ザルガイ目	シジミ科	タイワンシジミ群	<i>Corbicula fluminea</i> species-complex			●		大和川水系と淀川水系に分布 記録あり。紀ノ川分水により大和 川水系に分布を広げたといわれ ている。
貧毛綱 ナガミズ目	ムカシフトミズ科	ホタルミズ	<i>Microscolex phosphoreus</i> (Dugès, 1837)			●		奈良市、香芝市、広陵町、大和 郡山市、田原本町、香芝市、橿 原市、御所市で生息確認
滴虫綱 三岐腸目	サンカクアタマウ ズムシ科	アメリカナミウズムシ	<i>Girardia tigrina</i> (Girard, 1850)			●		大和川水系(奈良市、大和郡山 市、生駒市、平群町)で生息確 認
ヒドロ虫綱 マミズクラゲ目	ハナガサクラゲ科	マミズクラゲ	<i>Craspedacusta sowerbyi</i> Lankester, 1880			●		高取町、桜井市、吉野町に生息 情報あり

■ 蘚苔類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
コケ植物門 蘚 綱	センボンゴケ科	コモチネジレゴケ	<i>Syntrichia laevipila</i> Brid. Syn. <i>Tortula pagorum</i> (Milde) De Not.			●		2015年に橿原市の街路樹(クス ノキ)で確認されている。
コケ植物門 苔 綱	ミカヅキゼニゴケ 科	ミカヅキゼニゴケ	<i>Lunularia cruciata</i> (L.) Dumort.		総合その他	●		2010年に斑鳩町法隆寺調査で 分布が確認されている。

■ 維管束植物

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
羊歯植物門	イワヒバ科	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i> Hieron.			●		八重山諸島には在来種が生育。 県内では、2000年に高取町で 逸出野生化を確認。以降、確認 地点が増えている。
羊歯植物門	イワヒバ科	コンテリクラマゴケ	<i>Selaginella uncinata</i> (Desv.) Spring		総合その他	●		観賞用に栽培される。野外に捨 てられるなどして、温暖な地域で 逸出している。
羊歯植物門	トクサ科	トクサ	<i>Equisetum hyemale</i> L.				●	生花の材料などとして広く栽培さ れる。2005年に奈良市で逸出野 生化が記録されている。
羊歯植物門	サンショウモ科	アメリカオオアカウキ クサ	<i>Azolla cristata</i> Kaulf.	●	総合緊急	●		合鴨農法で各県に導入され広が ったが、特定外来生物指定で配 布が中止されて急速に減少。現 在は雑種のアイオオアカウキク サが多い。過去の記録はアイオ オアカウキクサと混同している可 能性がある。
羊歯植物門	サンショウモ科	ニシノオオアカウキ クサ	<i>Azolla filliculoides</i> Lam.		総合緊急	●		従来はオオアカウキクサ大和型 として在来種と考えられていた。 吉野川以北のため池、水田など で確認されている。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
羊歯植物門	サンショウモ科	アイオオアカウキクサ	<i>Azolla cristata</i> × <i>A. filiculoides</i>		総合緊急	●		アメリカオオアカウキクサとニシノオオアカウキクサの人工雑種。水鳥の足につくなどして拡散。現在、各地に分布を拡大している外来アゾラの大半は本種である。
羊歯植物門	イノモトソウ科	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i> L.			●		アジアントムとよぼれて栽培される。1993年に大塚市で確認。以降、奈良盆地周辺や五條市(大塚町)など、確認地点が増えている。
羊歯植物門	イノモトソウ科	モユジマシダ	<i>Pteris vittata</i> L.				●	暖地では新しい確認記録が増え、より人為による移入の可能性が大きい。2007年に十津川村に記録がある。
羊歯植物門	ヒメシダ科	イヌケホシダ	<i>Thelypteris dentata</i> (Forsk.) E.P.St.John				●	1990年年代までは十津川村での確認のみだが、2000年代以降は奈良盆地周辺に確認が多い。
羊歯植物門	ツルキジノオ科	ケマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i> (L.) C.Presl				●	園芸用に栽培される。
種子植物門	イチョウ科	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i> L.				?	導入年代は古い。街路樹などとして盛んに利用されて逸出野生化がみられる。
種子植物門	ジュンサイ科	フサジュンサイ	<i>Cabomba caroliniana</i> A.Gray		総合重点	●		2002年に宇陀市。以降、桜井市、生駒市、東吉野村に記録がある。
種子植物門	クスノキ科	ニッケイ	<i>Cinnamomum sieboldii</i> Meisn.			●		沖縄には在来の野生個体が分布するが、奈良県のは栽培個体が逸出野生化したものである。
種子植物門	クスノキ科	テンダイウヤク	<i>Lindera aggregata</i> (Sims) Kosterm.			●		薬草園などに栽培され、暖地では逸出する。県内各地に分布している。
種子植物門	クスノキ科	アオモジ	<i>Litsea cubeba</i> (Lour.) Pers.				●	1990年代より平群町、大和郡山市、奈良市などで確認されている。
種子植物門	サトイモ科	イボウキクサ	<i>Lemna gibba</i> L.			●		
種子植物門	サトイモ科	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i> L.	●	総合緊急	●		2004年に奈良市で確認されている。
種子植物門	サトイモ科	ミジンコウキクサ	<i>Wolffia globosa</i> (Roxb.) Harvog & Plas			●		奈良盆地周辺
種子植物門	オモダカ科	ナガバオモダカ	<i>Sagittaria graminea</i> Michx.		総合重点	●		1975年頃から京都市で見つかる。熱帯魚の水草として市販されている。県内では、1992年に大和郡山市、2003年に斑鳩町で確認されている。
種子植物門	トチカガミ科	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i> Planch.		総合重点	●		県全域
種子植物門	トチカガミ科	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i> (Planch.) St. John		総合重点	●		奈良盆地周辺
種子植物門	ユリ科	バイモ	<i>Fritillaria thunbergii</i> Miq.			●		2000年に吉野町で確認されている。
種子植物門	ユリ科	タカサゴユリ	<i>Lilium formosanum</i> A.Wallace		総合その他	●		県全域
種子植物門	ユリ科	シシテッポウユリ	<i>Lilium</i> × <i>formolongo</i> Hort.			●		タカサゴユリとテッポウユリの雑種。陰性があるため繁殖力旺盛。逸出して広がっている。
種子植物門	アヤメ科	ヒメオウギズイセン	<i>Crocodylia</i> × <i>crocodylliflora</i> (Lemoine) N.E.Br.		総合その他	●		
種子植物門	アヤメ科	シャガ	<i>Iris japonica</i> Thunb.			?		古く中国から渡来して野生化したとされる。人里周辺で栽培されており逸出野生化がみられる。
種子植物門	アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i> L.		総合重点	●		吉野川以北の各地
種子植物門	アヤメ科	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i> E.P.Bicknell			●		県全域
種子植物門	ヒガンバナ科	ユラ	<i>Allium tuberosum</i> Rottler ex Spreng.			?		古くから栽培されており各地に逸出している。
種子植物門	ヒガンバナ科	ハナユラ	<i>Iphion uniflorum</i> (Graham) Raf.		総合その他	●		
種子植物門	ヒガンバナ科	ナツズイセン	<i>Lycoris</i> × <i>squamigera</i> Maxim.			●		1988年以前に平群町、高取町、西吉野村で野生化が確認されている。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	ヒガンバナ科	スイセン	<i>Narcissus tazetta</i> L.			●		河川周辺などに野生化したと思われる個体あり
種子植物門	ヒガンバナ科	ハタケノラ	<i>Nothoscordum gracile</i> (Dryand.) Stearn			●		天理市、奈良市、川西町
種子植物門	ヒガンバナ科	タマスダレ	<i>Zephyranthes candida</i> (Lindl.) Herb.			●		
種子植物門	ヒガンバナ科	サフランホドク	<i>Zephyranthes carinata</i> Herb.			●		
種子植物門	キジカクシ科	オランダキジカクシ	<i>Asparagus officinalis</i> L.			●		
種子植物門	キジカクシ科	タマノカンザシ	<i>Hosta plantaginea</i> (Lam.) Asch. var. <i>japonica</i> Kikutl & F. Maek.			●		1960年に平群町で確認されている。
種子植物門	キジカクシ科	ムスカリ	<i>Muscari neglectum</i> Guss. ex Ten.			●		
種子植物門	ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i> (Hook.) H. Wendl.		総合その他		●	九州に自生。暖地では各地で見られるが、栽培から野生化したものとされる。鳥が種子を運ぶ。
種子植物門	ヤシ科	トウジュロ	<i>Trachycarpus wagnerianus</i> Hort. ex Becc.			●		
種子植物門	ツユクサ科	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i> L.				●	主に海岸付近に分布する種
種子植物門	ツユクサ科	ノハカタカラクサ	<i>Tradescantia fluminensis</i> Vell.		総合重点	●		
種子植物門	ツユクサ科	ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia ohioensis</i> Raf.			●		
種子植物門	ミズアオイ科	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i> (Mart.) Solms		総合重点	●		
種子植物門	ミズアオイ科	アメリカコナギ	<i>Heteranthera limosa</i> (Sw.) Willd.			●		1970年代後半に阿山県で見いだされた。県内では1996年に広陵町で確認された。以降、大和高田市などでも確認されている。
種子植物門	ショウガ科	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i> (Thunb.) Roscoe			?		古い時代に中国から渡来し野生状態になったものと思われる。各地で栽培され、逸出野生化している。
種子植物門	イグサ科	セイヨウイグサ	<i>Juncus effusus</i> L.			●		天理市、橿原市、田原本町
種子植物門	イグサ科	コゴメイ	<i>Juncus</i> sp.		総合重点	●		関東地方から近畿地方の河川を中心に分布を拡大しているが、未だ種名が定まらない。複数の種が含まれている可能性がある。
種子植物門	カヤツリグサ科	ミノボロスゲ	<i>Carex albata</i> Boott ex Franch.				●	赤山の登山道沿いで増加している。移入の可能性が高い。
種子植物門	カヤツリグサ科	シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i> L. subsp. <i>flabelliformis</i> Kük.		総合重点	●		奈良市、吉野町、斑鳩町
種子植物門	カヤツリグサ科	メジケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i> Lam.		総合重点	●		吉野川以北の各地
種子植物門	カヤツリグサ科	シヨクヨウガヤツリ	<i>Cyperus esculentus</i> L.			●		1980年前後に栃木県に侵入した。県内では2001年に明日香村で確認されている。
種子植物門	カヤツリグサ科	キンガヤツリ	<i>Cyperus odoratus</i> L.			●		外来の可能性大
種子植物門	イネ科	コスガクサ	<i>Agrostis gigantea</i> Roth		産菜	●		県全域
種子植物門	イネ科	クロコスガクサ	<i>Agrostis nigra</i> With.		産菜	●		奈良市、三宅町、斑鳩町、田原本町など
種子植物門	イネ科	ハイコスガクサ	<i>Agrostis stolonifera</i> L.			●		
種子植物門	イネ科	ヌカススキ	<i>Aira caryophyllaea</i> L. subsp. <i>multicaulis</i> (Dumort.) Bonnier & Lavens			●		奈良市、天川村など
種子植物門	イネ科	ハナスカススキ	<i>Aira elegantissima</i> Schur			●		奈良市、橿原市など
種子植物門	イネ科	オオスズメノテッポウ	<i>Alopecurus pratensis</i> L.			●		
種子植物門	イネ科	メジケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i> L.		総合その他	●		県全域
種子植物門	イネ科	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i> L.		総合その他	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	オオカニツリ	<i>Arrhenatherum elatius</i> (L.) P.Beauv. ex J. & C.Presl			●		大台ヶ原ドライブウェイなど
種子植物門	イネ科	カラスムギ	<i>Avena fatua</i> L.			●		史前帰化とされるが、近年は輸入穀物に混入して拡散している。
種子植物門	イネ科	オートムギ	<i>Avena sativa</i> L.			●		天理市、東吉野村など
種子植物門	イネ科	コバンソウ	<i>Briza maxima</i> L.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i> L.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	ヤクナガイヌムギ	<i>Bromus carinatus</i> Hook. & Arn.			●		2003年に奈良市で確認されている。
種子植物門	イネ科	イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i> Vahl			●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	ヒゲナガスズメノチヤビキ	<i>Bromus diandrus</i> Roth			●		奈良市、桜井市、明日香村

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	イネ科	ハトノチャヒキ	<i>Bromus hordeaceus</i> L., subsp. <i>molliformis</i> (Lloyd) Maire & A. Weiler			●		2007年に生駒市で確認されている。
種子植物門	イネ科	カラスノチャヒキ	<i>Bromus secaltinus</i> L.			●		2007年に生駒市で確認されている。
種子植物門	イネ科	ウマノチャヒキ	<i>Bromus tectorum</i> L.			●		1984年に平群町で確認されている。
種子植物門	イネ科	カンチク	<i>Chimonobambusa marmorata</i> (Miford) Makino			●?	●?	奈良県のは栽培起源。国外か国内かは不明
種子植物門	イネ科	シホウテク	<i>Chimonobambusa quadrangularis</i> (f. <i>ranceschi</i>) Makino			●		野生化したと思われる個体あり
種子植物門	イネ科	アフリカシバ	<i>Chloris gayana</i> Kunth			●		1994年に大和郡山市で確認されている。
種子植物門	イネ科	オヒダシバ	<i>Chloris virgata</i> Sw.			●		奈良市、大和郡山市
種子植物門	イネ科	シロガネヨシ	<i>Cortaderia selloana</i> (J.A. & J.H. Schult.) Asch. & Graebn.			●		別名 バンバスマグラス
種子植物門	イネ科	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i> L.		産業	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i> (Schrud.) Nees		総合重点	●		県全域
種子植物門	イネ科	ロスズメガヤ	<i>Eragrostis minor</i> Host			●		奈良盆地周辺
種子植物門	イネ科	チャボウシノシツペイ	<i>Eriochloa sphaeroides</i> (Munro) Hack.			●		芝生用植物として利用され逸出している。河合町、奈良市、五條市などで記録がある。
種子植物門	イネ科	オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i> Schreb.		産業	●		県全域
種子植物門	イネ科	ハガワリボシガヤ	<i>Festuca heterophylla</i> Lam.			●		2003年に大台ヶ原ドライブウェイで確認されている。
種子植物門	イネ科	ヒロハノウシノケグサ	<i>Festuca pratensis</i> Huds.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i> L. var. <i>rubra</i>			●		国内にのみ在来種もある。緑化で外国産が広がった。
種子植物門	イネ科	シラゲガヤ	<i>Holcus lanatus</i> L.			●		県全域、金剛山、葛城山、和佐又山、三峰山、大台ヶ原など高標高地に多い。
種子植物門	イネ科	ムギクサ	<i>Hordeum murinum</i> L.			●		天理市、明日香村、桜井市
種子植物門	イネ科	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i> Lam.		産業	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	ホソムギ	<i>Lolium perenne</i> L.		産業	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	ドクムギ	<i>Lolium temulentum</i> L.		産業	●		
種子植物門	イネ科	ノダナシドクムギ	<i>Lolium temulentum</i> L. f. <i>arvense</i> (With.) Junge		産業	●		
種子植物門	イネ科	ニコグサカキビ	<i>Panicum acuminatum</i> Sw.			●		1998年に奈良市(郡廊村)で確認されている。
種子植物門	イネ科	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i> Michx.		総合その他	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i> Poir.		総合その他	●		県全域
種子植物門	イネ科	キシウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> L.		総合その他	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i> Flügge		産業	●		確認地点が徐々に増えている。
種子植物門	イネ科	タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i> Steud.		総合その他	●		主に奈良盆地周辺。増加している。
種子植物門	イネ科	カナリークサヨシ	<i>Phalaris canariensis</i> L.			●		江戸時代末期にカナリヤの餌として導入され逸出した。奈良市などに記録がある。
種子植物門	イネ科	ヒメカナリークサヨシ	<i>Phalaris minor</i> Retz.			●		
種子植物門	イネ科	オオアヲガエリ	<i>Phleum pratense</i> L.		産業	●		県全域
種子植物門	イネ科	モウソウテク	<i>Phyllostachys edulis</i> (Carrère) Houz.		産業	●		江戸時代中期に中国から持ち込まれ、食用や竹細工の材料などに用いるため広く栽培された。県全域に広く分布している。
種子植物門	イネ科	ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> (Lodd. ex Loud.) Munro var. <i>henonis</i> (Bean ex Miford) Stapf ex Rendle		産業	●		
種子植物門	イネ科	マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i> (Rupr.) K. Koch		産業	●		県全域
種子植物門	イネ科	アレチイネガヤ	<i>Piptatherum miliaceum</i> (L.) Cosson			●		
種子植物門	イネ科	ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i> L.			●		
種子植物門	イネ科	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i> L.			●		
種子植物門	イネ科	ザラツキエノコログサ	<i>Setaria verticillata</i> (L.) P. Beauv.			●		1982年に奈良市で確認されている。
種子植物門	イネ科	オカメザサ	<i>Shibataea komasasa</i> (Zoll. ex Steud.) Nakai				●	県全域

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	イネ科	セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i> (L.) Pers.		総合その他	●		吉野川以北の各地
種子植物門	イネ科	ヒメモロコシ	<i>Sorghum halepense</i> (L.) Pers. <i>f. muticum</i> (Hack.) C.E.Hubb.			●		
種子植物門	イネ科	オオナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> (L.) C.C.Gmel. var. <i>megalura</i> (Nutt.) Rydb.			●		2007年に奈良市で確認されている。
種子植物門	イネ科	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> (L.) C.C.Gmel. var. <i>myuros</i>		産業	●		県全域
種子植物門	イネ科	ムラサキナギナタガヤ	<i>Vulpia octoflora</i> (Walter) Rydb.			●		1995年に奈良市で確認されている。
種子植物門	イネ科	コウライシバ	<i>Zoysia pacifica</i> (Goudswaard) M.Hotta & Kuroki			●		
種子植物門	ケシ科	ニセカラクサケマン	<i>Fumaria capreolata</i> L.			●		2004年に河合町、2011年に安堵町の河川敷で確認されている。
種子植物門	ケシ科	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i> L.			●		1961年に東京都で見いだされた。県内では主に吉野川以北の道端や市街地に生育している。
種子植物門	ケシ科	ヒナゲシ	<i>Papaver rhoeas</i> L.			●		江戸時代以降に観賞用に渡来し、それから野生化している。
種子植物門	ケシ科	アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> L. subsp. <i>setigerum</i> (DC.) Arcang.		総合その他	●		1964年に愛知県で報告された。県内では2006年に桜井市で確認されている。
種子植物門	メギ科	ホソバヒイラギナンテン	<i>Berberis fortunei</i> Lindl.			●		
種子植物門	メギ科	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i> (Thunb.) R.Br.		総合その他	●		
種子植物門	キンポウゲ科	シュウメイギク	<i>Anemone hupehensis</i> (Lemoine) Lemoine var. <i>japonica</i> (Thunb.) Bowles & Steerr.			●		
種子植物門	キンポウゲ科	ヒメリュウキンカ	<i>Ficaria verna</i> Huds.			●		1992年に大阪府で逸出の記録がある。県内では2013年以降奈良市、桜井市などで確認されている。
種子植物門	キンポウゲ科	クロタネソウ	<i>Nigella damascena</i> L.			●		わが国への移入年代は江戸時代末期とされる園芸植物
種子植物門	キンポウゲ科	トゲミノキツネノボタン	<i>Ranunculus muricatus</i> L.			●		2006年に河合町で記録。以降、奈良市、大淀町などで確認されている。
種子植物門	ハス科	ハス	<i>Nelumbo nucifera</i> Gaertn.			?		導入年代は古い。食用、観賞用などとして栽培される。
種子植物門	マンサク科	フウ	<i>Liquidambar formosana</i> Hance			●		2003年に上北山村白川池原ダム湖畔に逸出繁殖した個体が確認されている。
種子植物門	ベンケイソウ科	メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i> Britton			●		
種子植物門	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i> Bunge			●		
種子植物門	ベンケイソウ科	コケマンネングサ	<i>Tillaea muscosa</i> L.			●		
種子植物門	アリトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i> (Vell.) Veldc.	●	総合緊急	●		1988年以前に田原本町、三宅町で確認され、奈良市、上牧町などでも記録がある。
種子植物門	マメ科	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i> L.		総合重点	●		砂防で盛んに用いられ逸出野生化した。県全域に広く分布している。
種子植物門	マメ科	エニシダ	<i>Cytisus scoparius</i> (L.) Link		総合その他	●		江戸時代に観賞用として導入され、庭などに植えられた。緑化植物として利用されている。
種子植物門	マメ科	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i> (L.) DC.		総合その他	●		主に吉野川以北の荒地や道端に分布している。
種子植物門	マメ科	トウコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i> Walp.			●		別名 キダチコマツナギ 緑化目的で導入されたもの。県内各地に広がっている。
種子植物門	マメ科	セイヨウミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> L. var. <i>corniculatus</i>			●		
種子植物門	マメ科	モンツキウマゴヤシ	<i>Medicago arabica</i> (L.) Huds.			●		1953年に斑鳩町で確認(国内で最も古い記録の可能性がある)。以降、田原本町、天理市、生駒市などでも確認されている。
種子植物門	マメ科	キレハウマゴヤシ	<i>Medicago laciniata</i> (L.) Mill.			●		1976年に三重県で記録された。県内では2003年に天理市で確認されている。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	マメ科	コマソブウマゴヤシ	<i>Medicago lupulina</i> L.			●		江戸時代には渡来していた。1996年にはカナダから麦類に混入して輸入された例があるという。奈良盆地周辺の各地に分布している。
種子植物門	マメ科	コマゴヤシ	<i>Medicago minima</i> (L.) Burtol.			●		
種子植物門	マメ科	ウマゴヤシ	<i>Medicago polymorpha</i> L.			●		江戸時代に牧草として渡来した。奈良盆地周辺の各地に分布している。
種子植物門	マメ科	ムラサキウマゴヤシ	<i>Medicago sativa</i> L.			●		太和植物志、桜井市史などの文献に記載されているが、標本記録はない。
種子植物門	マメ科	シナガワハギ	<i>Medicago officinalis</i> (L.) Pall. subsp. <i>suaveolens</i> (Ledeb.) H. Ohashi			●		
種子植物門	マメ科	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudacacia</i> L.		産業	●		県全域
種子植物門	マメ科	エビスグサ	<i>Senna obtusifolia</i> (L.) H.S. Irwin & Barneby			●		
種子植物門	マメ科	クスタマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i> Schreb.			●		
種子植物門	マメ科	コマツツメクサ	<i>Trifolium dubium</i> Sibth.			●		県全域
種子植物門	マメ科	タチオランダゲンゲ	<i>Trifolium hybridum</i> L.			●		
種子植物門	マメ科	ベニバナツメクサ	<i>Trifolium incarnatum</i> L.			●		2011年に奈良市で確認されている。確認地点が増えている。
種子植物門	マメ科	ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i> L.			●		主に吉野川以北の各地に分布している。
種子植物門	マメ科	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i> L.			●		江戸時代に荷物の詰め物として渡来し、その後明治年間のはじめ以来飼料作物として盛んに導入された。県全域に広く分布している。
種子植物門	マメ科	ホソバヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> L. subsp. <i>nigra</i> (L.) Ehrh. var. <i>minor</i> (Bertol.) Gaudin			●		2007年に宇陀市で確認されている。
種子植物門	マメ科	オオヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> L. subsp. <i>sativa</i>			●		
種子植物門	マメ科	ツルナシヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> L. f. <i>normalis</i> (Makino) Kitam.			●		1972年に桜井市で確認されている。
種子植物門	マメ科	ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> Roth subsp. <i>varia</i> (Host) Corb.		産業	●		県全域
種子植物門	マメ科	ビロードクサフジ	<i>Vicia villosa</i> Roth subsp. <i>villosa</i>		産業	●		
種子植物門	マメ科	ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i> Siebold & Zucc.			●		植栽後に野生化したと思われる個体あり
種子植物門	バラ科	ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i> (Thunb.) Lindl.		産業	●		栽培起源と自生の区別が難しい。川上村には自生の可能性がある。
種子植物門	バラ科	オキジムシロ	<i>Potentilla supina</i> L.			●		戦後に横浜市などで見いだされた。県内では、奈良市などで確認されている。
種子植物門	バラ科	タチバナノドキ	<i>Pyracantha angustifolia</i> (Franch.) C.K. Schneid.		総合その他	●		
種子植物門	バラ科	ツクシイバラ	<i>Rosa molliflora</i> Thunb. var. <i>adenochaeta</i> (Koidz.) Ohwi			●		2011年に川西町大和川河川敷で確認されている。
種子植物門	バラ科	セイヨウヤブイチゴ	<i>Rubus armeniacus</i> Focke			●		2009年に奈良市で確認されている。
種子植物門	バラ科	エキヤナギ	<i>Spiraea thunbergii</i> Siebold ex Blume			●		河岸の岩壁などに生育する在来種であるが、観賞用に盛んに栽培されるため逸出個体が多い。自生との区別が難しい。
種子植物門	クワ科	カジノキ	<i>Broussonetia papyrifera</i> (L.) L'Her. ex Vent.			?		古くから和紙の原料用に栽培され、山野に野生化している。正確な原産地はわからない。
種子植物門	クワ科	コウゾ	<i>Broussonetia</i> × <i>kazinoki</i> Siebold			?		導入年代は古い。和紙の原料用に栽培され、ときに野生化している。
種子植物門	クワ科	マダラ	<i>Morus alba</i> L.			●		かつて養蚕のために広く栽培されていたものが放置され野生化している。
種子植物門	イラクサ科	ナンバンガラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> (L.) Gaudich. var. <i>nivea</i>			●		

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	イラクサ科	カベイラクサ	<i>Parietaria judaica</i> L.			●		1987年に横浜市で見いだされた。県内では2003年に安堵町高速道路高架下で確認されている。
種子植物門	イラクサ科	コケミズ	<i>Pilea peploides</i> (Gaudich.) Hook. & Arn.				●	在来種も分布。鉢植えや庭などに見られるものは外来と考えられる。
種子植物門	クルミ科	シナサワグルミ	<i>Pterocarya stenoptera</i> C.DC.			●		
種子植物門	カバノキ科	オオバヤシヤブシ	<i>Ailus sieboldiana</i> Matsum.				●	砂防や緑化目的に種子が播かれ野生化。県内では広く確認記録がある。
種子植物門	ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i> L.	●	総合緊急	●		1958年に香芝市で記録がある。奈良盆地周辺の各地で確認されている。
種子植物門	シュウカイドウ科	シキザキペゴニア	<i>Begonia cucullata</i> Willd.			●		十津川村
種子植物門	シュウカイドウ科	シュウカイドウ	<i>Begonia grandis</i> Dryand.			●		江戸時代初期に中国から渡来、観賞用に栽培され、暖かい地方では人家周辺などに野生化している。
種子植物門	カタバミ科	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i> Savignay			●		国内では1967年に帰化が報じられた。県内各地でみられる。
種子植物門	カタバミ科	ハナカタバミ	<i>Oxalis bowliana</i> Lodd.			●		江戸時代に渡来した記録があるが、現在見られるものはその後の移入によるものと考えられている。
種子植物門	カタバミ科	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis debilis</i> Kunth subsp. <i>corymbosa</i> (DC.) Lourteig			●		江戸時代末期に観賞用に渡来。各地で害草化している。県全域に広く分布している。
種子植物門	カタバミ科	オウチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i> Jucq.			●		1962年に京都府で見いだされた。進駐軍の荷物について侵入したと考えられている。
種子植物門	カタバミ科	オオキバナカタバミ	<i>Oxalis pes-caprae</i> L.		総合その他	●		1961年に鹿児島県で帰化状態にあることが確認された。県内では桜井市、橿原市で確認されている。
種子植物門	トウダイグサ科	オオバベニガシラ	<i>Alchornea davidii</i> French.			●		
種子植物門	トウダイグサ科	シマニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> (L.) Millsp.			●		橿原市、御所市
種子植物門	トウダイグサ科	ユニシキソウ	<i>Chamaesyce maculata</i> (L.) Small			●		県全域
種子植物門	トウダイグサ科	オオニシキソウ	<i>Chamaesyce nutans</i> (Lag.) Small			●		県全域
種子植物門	トウダイグサ科	ハイニシキソウ	<i>Chamaesyce prostrata</i> (Aiton) Small			●		
種子植物門	トウダイグサ科	トウゴマ	<i>Ricinus communis</i> L.			●		
種子植物門	トウダイグサ科	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i> (L.) Small		総合その他	●		奈良盆地周辺
種子植物門	トウダイグサ科	オオアブラギリ	<i>Vernicia fordii</i> (Hemsl.) Airy Shaw			●		油を採取するために栽培された。逸出野生化したと思われるものが上北山村、十津川村で確認されている。
種子植物門	ミカンソウ科	ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i> Roxb.			●		1990年代に福岡県、愛知県、千葉県などで確認された。県内では1991年に奈良市で確認され、各地に広がっている。
種子植物門	ヤナギ科	シダレヤナギ	<i>Salix babylonica</i> L.			?		古くから栽培され、ときに野生化している。
種子植物門	ヤナギ科	コリヤナギ	<i>Salix koriyanagi</i> Kimura ex Goerz			●		行李の材料として栽培される。
種子植物門	スミシ科	ニオイスマシ	<i>Viola odorata</i> L.			●		
種子植物門	スミシ科	アメリカスミレサイシン	<i>Viola sororia</i> Willd.			●		2015年に葛城市で確認されている。
種子植物門	スミシ科	サンシキスミレ	<i>Viola tricolor</i> L.			●		
種子植物門	アマ科	キバナノマツバニンジン	<i>Linum medium</i> (Plench.) Britton			●		
種子植物門	アマ科	アマ	<i>Linum usitatissimum</i> L.			●		1991年に吉野町で確認されている。
種子植物門	オトギリソウ科	キンシハイ	<i>Hypericum patulum</i> Thunb.			●		1988年以前に斑鳩町、奈良市で野生化が確認されている。主に吉野川以北地域に記録がある。五條市天ノ川の個体は自生との説もある。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	オトギリソウ科	コゴメバオトギリ	<i>Hypericum perforatum</i> L. subsp. <i>chinense</i> N. Robson			●		1993年に上北山村で記録がある。以降、川上村、大和郡山市などで確認されている。
種子植物門	フウロソウ科	オランダフウロ	<i>Erodium cicutarium</i> (L.) L'Her.			●		江戸時代末期に観賞用に輸入され、明治初年以降東京を中心に帰化状態が報じられた。2010年に天理市、2014年に奈良市で確認されている。
種子植物門	フウロソウ科	ジャコウオランダフウロ	<i>Erodium moschatum</i> (L.) L'Her.			●		1950年代に三重県で帰化が知られた。県内では2007年に大和高田市で確認されている。
種子植物門	フウロソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	フウロソウ科	オトメフウロ	<i>Geranium dissectum</i> L.			●		
種子植物門	フウロソウ科	ヤツゲフウロ	<i>Geranium molle</i> L.			●		1976年に北海道で見いだされた。県内では、2001年に天理市、2006年に明日香村で確認され、各地に広がっている。
種子植物門	フウロソウ科	ヤサカフウロ	<i>Geranium purpureum</i> Villars			●		
種子植物門	フウロソウ科	ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i> L.			●?	●?	国内に在来種が分布するが、県内には在来の自生個体はない。生駒市、天川村、桜井市、奈良市で確認されている。国内由来が国外由来かは不明
種子植物門	ミソハギ科	ナンゴクヒメミソハギ	<i>Ammannia auricularia</i> Willd.			●		1968年に鹿嶋島で採集された。県内では、2007年に王寺町、2010年に明日香村で確認されている。
種子植物門	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i> Roth.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	ミソハギ科	アメリカカキカシグサ	<i>Rotala ramosior</i> (L.) Koehne			●		1993年に横浜市で見いだされ、県内では、2010年に鹿嶋町で確認されて以降、各地に広がっている。
種子植物門	アカバナ科	ヤマモモソウ	<i>Gaura lindheimeri</i> Engelm. & A. Gray			●		
種子植物門	アカバナ科	ヒレタゴボウ	<i>Ludwigia decurrens</i> Walter			●		奈良盆地周辺
種子植物門	アカバナ科	アメリカミズユキノシタ	<i>Ludwigia repens</i> J.R. Forst. & Schmidt		総合重点	●		1970年頃から京都府深泥ヶ池で野生化。県内では1988年に生駒市で確認されている。
種子植物門	アカバナ科	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i> L.			●		県全域
種子植物門	アカバナ科	オオマツヨイグサ	<i>Oenothera glazioviana</i> Micheli			●		県全域
種子植物門	アカバナ科	コマツヨイグサ	<i>Oenothera lacinjata</i> Hill		総合重点	●		1981年に大和高田市で記録があり、県内各地で確認されている。
種子植物門	アカバナ科	ユウゲショウ	<i>Oenothera rasea</i> L'Her. ex Alton			●		吉野川以北の各地
種子植物門	アカバナ科	ヒルザキツキミノウ	<i>Oenothera speciosa</i> Nutt.			●		
種子植物門	アカバナ科	マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i> Ledeb. ex Link			●		県全域
種子植物門	ムクロジ科	フウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i> L.			●		1979年に奈良市で確認されている。
種子植物門	ミカン科	カラタチ	<i>Citrus trifoliata</i> L.			●		
種子植物門	ニガキ科	ニワウルシ	<i>Albanthus altissima</i> (Mill.) Swingle		総合重点	●		奈良盆地周辺
種子植物門	アオイ科	イナビ	<i>Abutilon theophrasti</i> Medik.			●		江戸時代に栽培の記録がある。近年各地にみられるものは輸入飼料などに混入して別途に侵入したものと考えられる。
種子植物門	アオイ科	タイワンツナン	<i>Corechoris olitorius</i> L.			●		モロヘイヤとして各地で栽培。2006年に天理市、2013年に奈良市で確認されている。
種子植物門	アオイ科	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i> L.			●		観賞用に栽培される。
種子植物門	アオイ科	ゼニアオイ	<i>Malva mauritiana</i> L.			●		江戸時代に観賞用に導入され、現在ではあまり重視されなくなり、しばしば人家の周辺で野生化している。
種子植物門	アオイ科	ゼニアオイ	<i>Malva neglecta</i> Wallr.			●		天理市、大和郡山市、明日香村
種子植物門	アオイ科	ウツギアオイ	<i>Malva parviflora</i> L.			●		天理市
種子植物門	アオイ科	ヤノネボンテンカ	<i>Pavonia hastata</i> Cav.			●		

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	アオイ科	キンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i> L.			●?	●?	2005年に平群町、2006年に斑鳩町で確認されている。屋久島以南、沖縄などに在来種が分布しており、県内の移入個体は国内由来か国外由来かは不明
種子植物門	アオイ科	アメリカキンゴジカ	<i>Sida spinosa</i> L.			●		1951年に群馬県と神奈川県で確認された。県内では、1958年に香芝市、2006年に高取町、2015年に大淀町で確認されている。
種子植物門	ジンチョウゲ科	ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i> Lindl.			●		繊維植物として導入されたが、近年では観賞用として栽培され、野生化している。
種子植物門	フウチョウソウ科	アフリカフウチョウソウ	<i>Cleome rutidosperma</i> DC.			●		1998年に兵庫県で見いだされた。県内では2012年に十津川村で確認されている。
種子植物門	フウチョウソウ科	セイヨフウチョウソウ	<i>Tarenaya hassleriana</i> (Chodat) Ilis			●		1984年に吉野川河川敷で確認されている。
種子植物門	アブラナ科	シロイヌナズナ	<i>Arabis thaliana</i> (L.) Heynh.			●		海岸や草地に生える在来種が存在するが、本県の市街地に見られるものは外来と考えられる。1968年に奈良市の名阪国道沿いで記録され、以降、国道沿いなどで確認されている。
種子植物門	アブラナ科	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i> R.Br.		総合その他	●		1978年に上北山村和佐又山で確認されている。宇陀市藤原や大台ヶ原周辺、行者還岳林道などの山地で記録されている。
種子植物門	アブラナ科	カラシナ	<i>Brassica juncea</i> (L.) Czern.		総合その他	●		県全域
種子植物門	アブラナ科	ミチタネツクバナ	<i>Cardamine hirsuta</i> L.			●		1992年に宮城県から日本海側にかけて侵入が報告された。県内では1998年に橿原市、天理市などで確認。以降、各地で確認されている。
種子植物門	アブラナ科	オハツキガラシ	<i>Erucastrum gallicum</i> (Willd.) O.E.Schulz			●		1970年に千葉県で発生したことが知られている。県内では1978年に宇陀市室生で確認されている。
種子植物門	アブラナ科	ヒメムラサキハナナ	<i>Isopodium acaule</i> Reichb.			●		
種子植物門	アブラナ科	ウロコナズナ	<i>Lepidium campestre</i> (L.) R.Br.			●		1950年頃に長野県に帰化した。県内では1986年に奈良市で確認されている。
種子植物門	アブラナ科	カラクサナズナ	<i>Lepidium didymum</i> L.			●		乳牛が摂食すると牛乳に臭臭が移行して問題となる。1996年に奈良市青垣台、2010年に奈良市百葉寺町で確認されている。
種子植物門	アブラナ科	マメゲンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i> L.			●		県全域
種子植物門	アブラナ科	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i> R.Br.		総合重点	●		1949年に奈良市水上池の記録有り。2000年以降の記録が多く、用水路や河川上流部などで確認されている。
種子植物門	アブラナ科	ショカツサイ	<i>Orychophragmus violaceus</i> (L.) O.E.Schulz			●		
種子植物門	アブラナ科	キレハイスガラシ	<i>Rorippa sylvestris</i> (L.) Besser			●		1963年に神奈川県から報告されたが、北海道では以前から存在が知られていた。県内では1991年に御杖村三峰山、1998年に十津川村、1999年に宇陀市室生で確認されている。
種子植物門	アブラナ科	ハタザオガラシ	<i>Sisymbrium altissimum</i> L.			●		1975年に香芝市、1990年前後に奈良市、上北山村などで確認されている。
種子植物門	アブラナ科	ホソエガラシ	<i>Sisymbrium irio</i> L.			●		
種子植物門	アブラナ科	カキネガラシ	<i>Sisymbrium officinale</i> (L.) Scop.			●		
種子植物門	アブラナ科	イスカキネガラシ	<i>Sisymbrium orientale</i> L.			●		1971年に大和高田市で確認。以降、奈良盆地周辺の車道沿いなどで確認されている。
種子植物門	アブラナ科	ダンバイナズナ	<i>Thlaspi arvense</i> L.			●		1975年に香芝市で確認されている。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	タデ科	シツクチソバ	<i>Fagopyrum dibotrys</i> (D. Don) H. Hara		総合その他	●		1980年代以降、奈良盆地周辺の河川や吉野川などの河川敷や林縁で確認されている。
種子植物門	タデ科	ソバカズラ	<i>Fallopia convolvulus</i> (L.) A. Löve			●		1975年に香芝市で確認されている。
種子植物門	タデ科	ツルクダシ	<i>Fallopia multiflora</i> (Thunb.) Haraldson		総合その他	●		江戸時代に長崎を経由して江戸に菓草として導入。県内各地で確認されている。
種子植物門	タデ科	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i> (L. Schmidt) Rense-Deer.				●	2004年に五條市(大塔村)で確認されている。緑化による移入と考えられる。
種子植物門	タデ科	ハリタデ	<i>Persicaria bungeana</i> (Turcz.) Nakai			●		
種子植物門	タデ科	ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i> (Buch.-Ham. ex D. Don) H. Gross		総合その他	●		
種子植物門	タデ科	オオケタデ	<i>Persicaria orientalis</i> (L.) Spach			●		1988年以前に田原本町、高取町で野生化が確認されている。
種子植物門	タデ科	ニオイタデ	<i>Persicaria viscosa</i> (Buch.-Ham. ex D. Don) H. Gross ex T. Mori			?		わが国への移入年代は江戸時代とされる。在来の説もある。
種子植物門	タデ科	ハイミヂヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> L. subsp. <i>depressum</i> (Meisn.) Arcang.			●		
種子植物門	タデ科	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i> L. subsp. <i>pyrenicus</i> (Pourret ex Lapeyr.) Akeroyd		総合その他	●		林道や道路沿いなどに生育。山地へも侵入しており大台ヶ原山(2011)の記録もある。
種子植物門	タデ科	アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i> Murray			●		都市近郊に記録が多い。
種子植物門	タデ科	ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i> L.		総合その他	●		都市近郊に記録が多い。
種子植物門	タデ科	エノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i> L.		総合その他	●		県北部都市近郊から県南部の山地まで広い範囲でみられる。
種子植物門	モウセンゴケ科	ナガエノモウセンゴケ	<i>Drosera intermedia</i> Hayne		総合重点	●		2002年に同山県の湯地に定着繁殖が確認された。これはマニアが意図的に植えたものと考えられている。在来のモウセンゴケと交雑する可能性がある。2011年に曾爾村お亀池で確認されている。
種子植物門	ナデシコ科	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.			●		県全域
種子植物門	ナデシコ科	ノバナナデシコ	<i>Dianthus armeria</i> L.			●		
種子植物門	ナデシコ科	ミチバタナデシコ	<i>Petrohragia nanteuilii</i> (Barnat) P.W. Ball & Heywood			●		
種子植物門	ナデシコ科	キヌイトツメクサ	<i>Sagina decumbens</i> (L.) Torr. & A. Gray			●		2013年に天理市で確認され、各地に広がっている。
種子植物門	ナデシコ科	ナボソウ	<i>Saponaria officinalis</i> L.			●		1988年以前に奈良市(都祁村)で野生化が確認されている。
種子植物門	ナデシコ科	シバツメクサ	<i>Scleranthus annuus</i> L.			●		1950年頃に浜松市で見いだされた。県内では1988年に奈良市で確認されている。
種子植物門	ナデシコ科	ムシトリナデシコ	<i>Silene aenea</i> L.		総合その他	●		
種子植物門	ナデシコ科	シロバナマンテマ	<i>Silene gallica</i> L. var. <i>gallica</i>			●		2000年以降に県北部の都市近郊での確認地点が多い。
種子植物門	ナデシコ科	イタリーマンテマ	<i>Silene gallica</i> L. var. <i>italica</i> (Gussone) S.M. Walters			●		
種子植物門	ナデシコ科	マンテマ	<i>Silene gallica</i> L. var. <i>quinquevulvis</i> (L.) W.D. J. Koch		総合その他	●		根拠文献は瀬所市史(1965)のみ。標本記録はない。
種子植物門	ナデシコ科	マツヨイセンノウ	<i>Silene latifolia</i> Poir. subsp. <i>alba</i> (Mill.) Greuter & Burdet			●		
種子植物門	ナデシコ科	サクラマンテマ	<i>Silene pendula</i> L.			●		2001年に奈良市で確認
種子植物門	ナデシコ科	ノハラツメクサ	<i>Spergula arvensis</i> L. var. <i>arvensis</i>			●		
種子植物門	ナデシコ科	オオツメクサ	<i>Spergula arvensis</i> L. var. <i>sativa</i> (Boenn.) Mort. & W.D. J. Koch			●		1990年に奈良市で確認
種子植物門	ナデシコ科	コハコベ	<i>Stellaria media</i> (L.) Vahl			●		県全域
種子植物門	ナデシコ科	イヌコハコベ	<i>Stellaria pallida</i> (Dumort.) Crép.			●		1978年に千葉県船橋市で見いだされた。県内では1997年に奈良市で記録があり、現在では各地でみられる。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	ヒユ科	ホソバツルノゲイトウ	<i>Alternanthera denticulata</i> R.Br.			●		1998年に奈良県内数カ所のダム湖やため池などの池尻で確認されている。
種子植物門	ヒユ科	ツルノゲイトウ	<i>Alternanthera sessilis</i> (L.) R.Br. ex DC.			●		
種子植物門	ヒユ科	ヒメシロビユ	<i>Amaranthus albus</i> L.			●		
種子植物門	ヒユ科	ハイビユ	<i>Amaranthus deflexus</i> L.			●		
種子植物門	ヒユ科	ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i> L.			●		吉野川以北の荒地や河川敷、畑地などに生育している。
種子植物門	ヒユ科	ホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus powellii</i> S. Watson			●		
種子植物門	ヒユ科	アオゲイトウ	<i>Amaranthus retroflexus</i> L.			●		
種子植物門	ヒユ科	ハリビユ	<i>Amaranthus spinosus</i> L.			●		吉野川以北の荒地や河川敷、畑地などに生育している。
種子植物門	ヒユ科	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i> L.			●		吉野川以北の荒地や河川敷、畑地などに生育している。
種子植物門	ヒユ科	ホウキギ	<i>Bassia scoparia</i> (L.) A. J. Scott			●		
種子植物門	ヒユ科	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i> L.			●		
種子植物門	ヒユ科	アカザ	<i>Chenopodium album</i> L. var. <i>centrorubrum</i> Makino			●		
種子植物門	ヒユ科	コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i> Sm.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	ヒユ科	ヒメハマアカザ	<i>Chenopodium leptophyllum</i> (Nutt. ex Moq.) S. Watson			●		2003年に十津川村で確認されている。
種子植物門	ヒユ科	アリタソウ	<i>Dysphania ambrasioides</i> (L.) Mosyakin et Clemants			●		
種子植物門	ヒユ科	ゴウシュウアリタソウ	<i>Dysphania pumilio</i> (R.Br.) Mosyakin et Clemants			●		2002年に天理市で確認。以降、橿原市、田原本町などで記録がある。
種子植物門	ハマミズナ科	マツバギク	<i>Lampranthus spectabilis</i> (Haw.) N. E. Br.			●		
種子植物門	ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ	<i>Phytolacca acinosa</i> Roxb.			?		江戸時代以前に食用として中国から導入。多武峰、春日山、信貴山など、いずれも2000年以前の記録である。
種子植物門	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i> L.			●		県全域
種子植物門	オシロイバナ科	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i> L.			●		江戸時代に渡来して観賞用に栽培され、現在では各地に逸出して野生化している。
種子植物門	ザクロン科	クレンパゼクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i> L.			●		都市周辺の庭や裸地に生育している。
種子植物門	スベリヒユ科	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i> L.		総合重点	●		
種子植物門	スベリヒユ科	ハゼラン	<i>Tulinum paniculatum</i> (Jacq.) Gaertn.			●		
種子植物門	ツバキ科	チャノキ	<i>Camellia sinensis</i> (L.) Kuntze			●		県全域
種子植物門	マダタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia chinensis</i> Planch. var. <i>deliciosa</i> (A. Cheval.) A. Cheval.		産業	●		逸出野生化している。
種子植物門	アカネ科	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i> Walter		総合その他	●		2002年に奈良市で確認されている。奈良盆地周辺の池などに分布している。
種子植物門	アカネ科	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i> L.			●		1969年に岡山県で見いだされた。県内では1998年に宇陀市室生湖で確認され、ダム湖など各地に広がっている。
種子植物門	アカネ科	シラホシムグラ	<i>Galium aparine</i> L.			●		1990年に千葉県で採集された記録がある。県内では各地に広がっている。
種子植物門	アカネ科	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i> (Thunb.) Thunb.			●		
種子植物門	アカネ科	ハチヤエムグラ	<i>Sherardia arvensis</i> L.			●		1961年に千葉県で見いだされた。県内では1995年に明日香村、2007年に生駒市で確認されている。
種子植物門	リンドウ科	ハナハマセンブリ	<i>Centaureum tenuiflorum</i> (Hoffmanns. & Link) Fritsch			●		2007年に大和郡山市の記録があるほか、五條市、川上村、橿原市などで確認されている。
種子植物門	キョウチクトウ科	トウワタ	<i>Asclepias curassavica</i> L.			●		十津川村
種子植物門	キョウチクトウ科	ツルニチエチソウ	<i>Vinca major</i> L.		総合重点	●		
種子植物門	ムラサキ科	ノハラムラサキ	<i>Myosotis arvensis</i> (L.) Hill			●		1977年に桜井市、2010年、2012年に奈良市で確認されている。
種子植物門	ムラサキ科	ヒレハリスウ	<i>Symphytum officinale</i> L.			●		

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	ヒルガオ科	セイヨウヒルガオ	<i>Convolvulus arvensis</i> L.			●		1988年以前に掘原市で確認されている。
種子植物門	ヒルガオ科	アメリカネウシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i> Yuncker		総合その他	●		1988年以前に田原木町で確認されている。他に桜井市、奈良市などの記録がある。
種子植物門	ヒルガオ科	カリブナアオイゴケ	<i>Dichondra carolinensis</i> Michx.			●		1970年頃東京都で街路樹の下車として植えられた。県内では、2006年に大和高田市、2011年に奈良市で確認されている。
種子植物門	ヒルガオ科	マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i> L.			●		1850年前後に花弁として渡来。1958年に香芝市で確認されている。吉野川以北の各地に広がっている。
種子植物門	ヒルガオ科	アメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i> (L.) Jacq. var. <i>hederacea</i>			●		江戸時代末期に観賞用に導入されたが、戦後に増化が認められた。1958年に香芝市で確認されている。吉野川以北の各地で見られる。
種子植物門	ヒルガオ科	マルバアメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i> (L.) Jacq. var. <i>integrifolia</i> A. Gray			●		1958年に香芝市で確認されている。吉野川以北の各地で見られる。
種子植物門	ヒルガオ科	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i> L.			●		1958年に香芝市で確認されている。吉野川以北の各地で見られる。
種子植物門	ヒルガオ科	アサガオ	<i>Ipomoea nil</i> (L.) Roth			●		10世紀頃に中国から薬用植物として渡来。江戸時代には観賞用に多数の園芸品種がつくられた。現在、逸出・野生化が各地に見られる。1988年以前に田原本町、掘原市、西吉野村で野生化が確認されている。
種子植物門	ヒルガオ科	マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i> (L.) Roth			●		1705年前後に観賞用花弁として渡来。暖地を中心に野生化した。1988年以前に奈良市、生駒市で野生化が確認されている。
種子植物門	ヒルガオ科	ルコウソウ	<i>Ipomoea quamoclit</i> L.			●		江戸時代に渡来。観賞用に栽培されてきた。1988年以前に明日香村、大淀町で野生化が確認されている。
種子植物門	ヒルガオ科	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i> L.		総合その他	●		
種子植物門	ナス科	チョウセンアサガオ	<i>Datura metel</i> L.		総合その他	●		
種子植物門	ナス科	シロバナチョウセンアサガオ	<i>Datura stramonium</i> L. f. <i>stramonium</i>		総合その他	●		
種子植物門	ナス科	ヨウシュチョウセンアサガオ	<i>Datura stramonium</i> L. f. <i>tatura</i> (L.) B. Boivin		総合その他	●		香芝市、奈良市、掘原市、御所市
種子植物門	ナス科	ケチョウセンアサガオ	<i>Datura wrightii</i> Regel		総合その他	●		2005年に奈良市、2015年に川上村で確認されている。
種子植物門	ナス科	ハナタバコ	<i>Nicotiana</i> × <i>sanderse</i> Hort. ex Sander			●		
種子植物門	ナス科	ツクバネアサガオ	<i>Petunia</i> × <i>hybrida</i> (Hook. f.) Vilm.			●		
種子植物門	ナス科	ヒロハフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i> L. var. <i>angulata</i>			●		奈良市、御所市
種子植物門	ナス科	シヨクヨウホオズキ	<i>Physalis grisea</i> (Wats.) M. Martinez			●		1996年に山添村で確認されている。
種子植物門	ナス科	ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i> L.			●		1996年に山添村で確認されている。
種子植物門	ナス科	テリミノイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i> Mill.			●		1962年に王寺町で確認され、他に桜井市、五條市(大塔村)、川西町などの記録がある。
種子植物門	ナス科	ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	ナス科	オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i> Martens & Gal.			●		
種子植物門	ナス科	タマサンゴ	<i>Solanum pseudocapsicum</i> L.			●		
種子植物門	ナス科	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptychanthum</i> Dunal			●		奈良盆地周辺
種子植物門	ナス科	ケイヌホオズキ	<i>Solanum sarrachoides</i> Sendtn.			●		
種子植物門	モクセイ科	ツケイ	<i>Jasminum officinale</i> L.			●		十津川村
種子植物門	モクセイ科	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i> Aiton		総合重点	●		
種子植物門	モクセイ科	ヨウシュイボタ	<i>Ligustrum vulgare</i> L.			●		

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	オオバコ科	ウキアゼナ	<i>Bacopa rotundifolia</i> (Michx.) Wettst.		総合その他	●		1954年に岡山県で見いだされた。県内では、1999年に奈良市、2010年に大和高田市で確認されている。
種子植物門	オオバコ科	ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i> P.Gaertn., B.Mey. & Scherb.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	オオバコ科	ジギタリス	<i>Digitalis purpurea</i> L.			●		1993年に上北山村で、2007年に天川村で確認されている。
種子植物門	オオバコ科	ホソバウンラン	<i>Linaria vulgaris</i> Mill.			●		1997年に天理市で記録されたほか、五條市、十津川村などで確認されている。
種子植物門	オオバコ科	マツバウンラン	<i>Nuttallanthus canadensis</i> (L.) D.A.Sutton			●		県全域
種子植物門	オオバコ科	オオマツバウンラン	<i>Nuttallanthus texanus</i> (Scheele) D.A.Sutton			●		2007年に奈良市で確認されている。
種子植物門	オオバコ科	ヘシオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i> L.			●		江戸時代末期に渡来したとされ、牧草種子に混入して分布を拡大した。吉野川以北の各地に分布する。
種子植物門	オオバコ科	セイヨウオオバコ	<i>Plantago major</i> L.			●		2006年に大淀町で確認されている。
種子植物門	オオバコ科	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i> L.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	オオバコ科	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i> L.	●	総合緊急	●		吉野川以北の河川や水路などに分布している。
種子植物門	オオバコ科	タチヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i> L.			●		県全域
種子植物門	オオバコ科	フラサバソウ	<i>Veronica hederifolia</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	オオバコ科	オオヌノフグリ	<i>Veronica persica</i> Poir.			●		県全域
種子植物門	オオバコ科	ホナガカワヂシャ	<i>Veronica × myriantha</i> Tos.Tanaka			●		2006年に河合町(大和川)で確認され、他にも確認地点が増えている。
種子植物門	ゴマノハグサ科	フサフジウツギ	<i>Buddleja davidii</i> Franch.		総合重点	●		十津川村、川上村、山添村
種子植物門	ゴマノハグサ科	シロバナモウズイカ	<i>Verbascum blattaria</i> L. f. <i>erubescens</i> Brügger			●		2015年に川上村で確認されている。
種子植物門	ゴマノハグサ科	ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i> L.			●		十津川村、山添村など
種子植物門	アゼナ科	ヒメアマリアアゼナ	<i>Lindernia anagallidea</i> (Michx.) Pennell			●		奈良市(都祁村)、大和郡山市
種子植物門	アゼナ科	タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> (L.) Pennell subsp. <i>dubia</i>			●		吉野川以北の各地
種子植物門	アゼナ科	アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> (L.) Pennell subsp. <i>major</i> (Pursh) Pennell			●		県全域
種子植物門	アゼナ科	ハナウリクサ	<i>Torenia fourieri</i> Linden ex E.Fourn.			●		
種子植物門	シソ科	クロバナヒキオコシ	<i>Isodon trichocarpus</i> (Maxim.) Kud*				●	明日香村
種子植物門	シソ科	モミジバヒメオドリコソウ	<i>Lamium dissectum</i> With.			●		1992年に横浜市で見いだされた。県内では2002年に吉野町で確認。以降、宇陀市、奈良市でも確認されている。
種子植物門	シソ科	ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	シソ科	オランダハッカ	<i>Mentha spicata</i> L.			●		
種子植物門	シソ科	マルバハッカ	<i>Mentha suaveolens</i> Ehrh.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	シソ科	コショウハッカ	<i>Mentha × piperita</i> L.			●		2014年に桜井市で確認されている。
種子植物門	シソ科	エゴマ	<i>Perilla frutescens</i> (L.) Britton var. <i>frutescens</i>			●		
種子植物門	シソ科	ヤブチャロギ	<i>Stachys arvensis</i> (L.) L.			●		2014年に御所市で確認されている。
種子植物門	シソ科	イブキジャコウソウ	<i>Thymus quinquecostatus</i> Golak.				●	野道川村のゴミ捨て場の近く。移入によるものと思われる。
種子植物門	キリ科	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i> (Thunb.) Steud.			?		古くから栽培され、野生化しているものもある。県全域の各地に分布している。
種子植物門	ハマウツボ科	ヤセウツボ	<i>Orobanche minor</i> Sm.			●		1972年に奈良教育大学構内で確認されている。他に高円山、生駒市などにも記録がある。
種子植物門	ハマウツボ科	セイヨウヒキヨモギ	<i>Parentucellia viscosa</i> (L.) Ceruel			●		高取町、五條市
種子植物門	タヌキモ科	オオバナイトタヌキモ	<i>Utricularia gibba</i> L.		総合重点	●		2000年より奈良市佐紀町で記録されており、同地では増加している。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	キツネノマゴ科	ヤナギバルイソウ	<i>Ruellia brittoniana</i> Leonard ex Fernald		総合その他	●		1974年に沖縄県に導入された記録がある。県内では2012年に奈良市で確認されている。
種子植物門	ノウゼンカズラ科	アメリカノウゼンカズラ	<i>Campsis radicans</i> (L.) Seem.			●		橿原市線路脇
種子植物門	ノウゼンカズラ科	キササゲ	<i>Catalpa ovata</i> G. Don			●		
種子植物門	クマツヅラ科	ヒメビジュヅクラ	<i>Glandularia tenera</i> (Spreng.) Cabrera			●		
種子植物門	クマツヅラ科	シチヘンゲ	<i>Lantana camara</i> L. var. <i>sculesta</i> (L.) Moldenke		総合重点	●		1865年頃に観賞用に導入された。観賞用に広く栽培されたものが逸出している。
種子植物門	クマツヅラ科	ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i> L.		総合その他	●		奈良盆地周辺
種子植物門	クマツヅラ科	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i> Vell.		総合その他	●		
種子植物門	クマツヅラ科	ダキバアレチハナガサ	<i>Verbena incompta</i> P.W. Michael		総合その他	●		1933年の大阪の採集記録が最も古い。県内では2012年に天理市で記録がある。最近までアレチハナガサやヤナギハナガサと混同されていた。
種子植物門	クマツヅラ科	ハマクマツヅラ	<i>Verbena litoralis</i> Kunth		総合その他	●		別名 ヒメクマツヅラ
種子植物門	キキョウ科	ロベリアソウ	<i>Lobelia inflata</i> L.			●		1950年に平群町で確認されている。
種子植物門	キキョウ科	ヒナキキョウソウ	<i>Triodanis biflora</i> (Ruiz & Pav.) Greene			●		奈良盆地周辺
種子植物門	キキョウ科	キキョウソウ	<i>Triodanis perfoliata</i> (L.) Nieuwl.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	キク科	セイヨウノコギリソウ	<i>Achillea millefolium</i> L.			●		三岐山、大台ヶ原などの山地、奈良盆地周辺などで確認されている。
種子植物門	キク科	マルバフジバカマ	<i>Ageratina altissima</i> (L.) R.M. King & H. Rob.		総合その他	●		2000年に山添村で確認されている。
種子植物門	キク科	カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i> L.		総合その他	●		2011年に五條市滝町トンボ川で確認されている。
種子植物門	キク科	ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> L.			●		減少傾向
種子植物門	キク科	ブタクサモドキ	<i>Ambrosia psilostachya</i> DC.			●		
種子植物門	キク科	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i> L.		総合重点	●		吉野川以北の各地
種子植物門	キク科	カミツレモドキ	<i>Anthemis cotula</i> L.			●		
種子植物門	キク科	ワタダハナヅルマ	<i>Arctotheca calendula</i> (L.) Levyns		総合その他	●		1966年に三重県で見いだされた。県内では1995年に天理市で確認されている。
種子植物門	キク科	クノニンジン	<i>Artemisia annua</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	キク科	イワヨモギ	<i>Artemisia sacrorum</i> Ledeb.			●		2007年御杖村で記録されているほか、明日香村、普賢村で確認されている。緑化によって外国産種子が持ち込まれたと考えられる。
種子植物門	キク科	コンギク	<i>Aster microcephalus</i> (Miq.) Franch. & Sav. var. <i>ovatus</i> (Franch. & Sav.) Soejima & Mot. Itô 'Hortensis'			●		ノコンギクからつくられた園芸品種(人為種)
種子植物門	キク科	シオン	<i>Aster tataricus</i> L. f.			●		2004年に奈良市で確認されている。
種子植物門	キク科	コバノセンダングサ	<i>Bidens bipinnata</i> L.			●		宇陀市、天理市、御所市、奈良市、大淀町
種子植物門	キク科	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i> L.		総合その他	●		県全域
種子植物門	キク科	コシコノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>minor</i> (Blume) Sherff			●		1975年に桜井市で確認。五條市、香芝市、天理市、下北山村など、2000年以降の確認が多い。
種子植物門	キク科	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>pilosa</i>			●		県全域
種子植物門	キク科	オオハテナノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> Sch. Bip.			●		2007年に下北山村で確認されている。
種子植物門	キク科	ヒメキンセンカ	<i>Calendula arvensis</i> L.			●		
種子植物門	キク科	ヒレアザミ	<i>Carduus crispus</i> L.			●		1962年に天川村で確認されている。
種子植物門	キク科	ヒメヒレアザミ	<i>Carduus pycnocephalus</i> L.			●		1997年および2012年に奈良市で確認されている。
種子植物門	キク科	ヤグルマギク	<i>Centaurea cyanus</i> L.			●		2006年に奈良市で確認。各地で逸出野生化している。
種子植物門	キク科	ヒレハリギク	<i>Centaurea mellensis</i> L.			●		2015年に生駒市で確認されている。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	キク科	シロバナアブラギク	<i>Chrysanthemum</i> × <i>leucanthum</i> (Makino) Makino		総合その他	●		1971年に御所市で確認されている。
種子植物門	キク科	キクタニギク	<i>Chrysanthemum seticospe</i> (Maxim.) Hand. Mazz. f. <i>horvathii</i> (Makino) H. Ohashi & Yonek.		総合その他	●		奈良県では大部分が在来個体だが、緑化種子に混入した外来の系統が侵入している可能性が高い。
種子植物門	キク科	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i> (Savi) Ten.		総合その他	●		2007年以降、奈良市、大川村、橿原市、大台ヶ原などで確認されている。分布拡大している。
種子植物門	キク科	アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i> (L.) Cronquist			●		奈良盆地周辺
種子植物門	キク科	ヒメムカシヨモギ	<i>Conyza canadensis</i> (L.) Cronquist			●		県全域
種子植物門	キク科	カナシヒメムカシヨモギ	<i>Conyza parva</i> Cronquist		総合その他	●		十津川村、川上村、櫻井市、御所市、高取町、五條市(大塔村)
種子植物門	キク科	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i> (Retz.) E. Walker			●		県全域
種子植物門	キク科	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i> L.	●	総合緊急	●		1988年以前に宇陀市(室生村)で野生化が確認されている。以降、各地で確認。増加している。
種子植物門	キク科	ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i> Nutt.		総合その他	●		1988年以前に田原本町、曾爾村で野生化が確認されている。以降、高取町などで確認されている。
種子植物門	キク科	コスモス	<i>Cosmos bipinnatus</i> Cav.			●		1988年以前に王寺町で野生化が確認されている。
種子植物門	キク科	キバナコスモス	<i>Cosmos sulphureus</i> Cav.			●		
種子植物門	キク科	マメカミヅレ	<i>Cotula australis</i> (Sieber ex Spreng.) Hook. f.			●		1969年に田原本町で確認。県内各地に分布している。
種子植物門	キク科	ペニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i> (Benth.) S. Moore			●		県全域
種子植物門	キク科	ヤネタバシロ	<i>Crepis tectorum</i> L.			●		1970年代の中頃に関東地方や北海道で見いだされた。県内では1986年に奈良市で確認されている。
種子植物門	キク科	アメリカカササゴ	<i>Eclipta alba</i> (L.) Hassk.			●		日本では1981年に気づかれた。県内では1998年に大里市で確認。県全域の各地に分布している。
種子植物門	キク科	ダントホロギク	<i>Erechtites hieracifolius</i> (L.) Raf. ex DC.			●		県全域
種子植物門	キク科	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i> (L.) Pers.		総合その他	●		江戸時代末期に觀賞用に導入され、明治年間から各地に帰化した。県全域の各地に分布している。
種子植物門	キク科	ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karwinskianus</i> DC.		総合その他	●		1949年に京都市で野生化が知られた。県内では1998年に御所市で確認されている。県内各地に分布している。
種子植物門	キク科	ハルバジョオン	<i>Erigeron philadelphicus</i> L.			●		県全域
種子植物門	キク科	ヤナギバヒメジョオン	<i>Erigeron pseudoannuus</i> Makino			●		
種子植物門	キク科	ヘラバヒメジョオン	<i>Erigeron strigosus</i> Muhl. ex Willd.			●		1984年に奈良市で記録がある。以降、吉野川以北の市街地や道路周辺で確認されている。
種子植物門	キク科	ニセフジバカマ	<i>Eupatorium</i> sp.			●		フジバカマと称して流通している。現在のところ原産地や侵入経路は不明で学名も決められない。2011年に香芝市で確認されている。
種子植物門	キク科	キヌゲチチノグサ	<i>Facelis retusa</i> (Lam.) Sch. Bip.			●		1992年に大阪府で見いだされた。県内では2005年に櫻井市で確認されたほか、香芝市、明日香村、御所市などに記録がある。
種子植物門	キク科	ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i> (L.) Kitan.			●		庭などに植えられるため人家近くでは逸出することがある。2006年に王寺町で確認されている。
種子植物門	キク科	コゴメギク	<i>Galinsoga parviflora</i> Cav.			●		1956年に西吉野村で確認されている。
種子植物門	キク科	ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i> Ruiz & Pav.			●		吉野川以北の各地

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	キク科	ホソバナチチコグサ モドキ	<i>Gnaphalium calviceps</i> (Fernald) A.L.Cabrera			●		別名 タチチコグサ。吉野川 以北の各地に分布している。
種子植物門	キク科	クラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium coarctata</i> (Willd.) Kerguelen			●		1995年に奈良市で記録されて いる。奈良盆地周辺の都市近郊 などに分布している。
種子植物門	キク科	チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pennsylvanicum</i> (Willd.) A.L.Cabrera			●		県全域
種子植物門	キク科	ウスベニチチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i> (L.) A.L.Cabrera			●		吉野川以北の各地
種子植物門	キク科	セイタカハハコグサ	<i>Gnaphalium luteoalbum</i> L.			●		戦後に沖縄に帰化。県内では 2004年に天理市で確認された ほか、明日香村、奈良市などに 記録がある。
種子植物門	キク科	サンシチソウ	<i>Gynura japonica</i> (Thunb.) Juel			●		1977年に桜井市で野生化を確 認。以降、奈良公園、西吉野村 人家跡などでも確認されている。
種子植物門	キク科	シロタコヒマワリ	<i>Helianthus argophyllus</i> Torr. & A.Gray			●		1988年以前に川西町で野生化 が確認されている。
種子植物門	キク科	イスキクイモ	<i>Helianthus strumosus</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	キク科	キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i> L.			●		奈良盆地周辺
種子植物門	キク科	キクイモモドキ	<i>Heliopsis helianthoides</i> (L.) Sweet			●		2004年に東吉野村、2005年に 川上村で確認されている。
種子植物門	キク科	ヒメブタナ	<i>Hypochaeris glabra</i> L.			●		1970年に三重県で見いだされ た。県内では2013年に奈良市 月分瀬で確認されたほか、川上 村、橿原市、明日香村などで確 認されている。
種子植物門	キク科	ブタナ	<i>Hypochaeris radicata</i> L.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	キク科	トゲチシャ	<i>Lactuca scariola</i> L.			●		1940年代以降北日本で認めら れた。県内では1983年以前に 田原本町で確認。以降、奈良 市、天理市、川上村などで確認 されている。
種子植物門	キク科	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i> Lam.		総合その他	●		1980年代以前に奈良市、生駒 市などで野生化が確認されたほ か、大淀町、山添村などで確認 されている。
種子植物門	キク科	カミツレ	<i>Matricaria chamomilla</i> L.			●		2004年、2007年に奈良市で確 認されている。
種子植物門	キク科	ゴロツキアザミ	<i>Oncopordum acanthium</i> L.			●		1965年に三重県で見いだされ た。県内では2013年に奈良市 第二阪奈道路高架下で確認さ れている。
種子植物門	キク科	アラゲハンゴンソウ	<i>Rudbeckia hirta</i> L. var. <i>pulcherrima</i> Farw.		総合その他	●		
種子植物門	キク科	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i> L.	●	総合緊急	●		1996年宇陀市(宇陀町本郷の 休耕地)で確認されたほか、桜井 市でもみられた。
種子植物門	キク科	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i> Poir.	●	総合緊急	●		1976年に徳島県で見いだされ た。県内では1993年に香芝市 で確認。各地に広がっている。
種子植物門	キク科	ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i> L.			●		県全域
種子植物門	キク科	オオアザミ	<i>Silybum marionum</i> (L.) Gaertn.			●		1988年以前に田原本町で野生 化が確認されている。
種子植物門	キク科	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i> L.		総合重点	●		県全域
種子植物門	キク科	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> Aiton subsp. <i>serotina</i> (Kuntze) McNeill		総合重点	●		吉野川以北
種子植物門	キク科	イガトキンソウ	<i>Soliva anthemifolia</i> (Juss.) R.Br.			●		1994年に葛城市(當麻町)で確 認されているほか、奈良市など に記録がある。
種子植物門	キク科	メリケンキンソウ	<i>Soliva sessilis</i> Ruiz & Pav.			●		公園・グラウンド・ゴルフ場に蔓延 り、刺のある果実が服などにつく と厄介である。2010年代以降に 奈良公園など各地で確認されて いる。
種子植物門	キク科	オニノゲン	<i>Sonchus asper</i> (L.) Hill			●		県全域
種子植物門	キク科	キダチコンギク	<i>Symphotrichum pilosum</i> (Willd.) G.L.Nesom			●		1988年に奈良市で確認されて いる。

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
種子植物門	キク科	オオホウキギク	<i>Symphytotrichum subulatum</i> (Michx.) G.L.Nesom var. <i>elongatum</i> (Bossardot ex A.G.Jones et Lowry) S.D.Sundberg			●		
種子植物門	キク科	ヒロハホウキギク	<i>Symphytotrichum subulatum</i> (Michx.) G.L.Nesom var. <i>squamatum</i> (Spreng.) S.D.Sundberg			●		吉野川以北の各地
種子植物門	キク科	ホウキギク	<i>Symphytotrichum subulatum</i> (Michx.) G.L.Nesom var. <i>subulatum</i>			●		
種子植物門	キク科	シオザキソウ	<i>Tagetes minuta</i> L.			●		1957年に東京都で帰化の報告がある。県内では1984年に大和郡山市で、2005年に十津川村で確認されている。
種子植物門	キク科	アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i> (Willd.) DC.		総合重点	●		県全域
種子植物門	キク科	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i> Weber ex F.H.Wigg.		総合重点	●		県全域
種子植物門	キク科	イヌカミツレ	<i>Tripleurospermum maritimum</i> (L.) Sch.Bip. subsp. <i>inodorum</i> (L.) Applequist			●		2012年に奈良市の水田で確認されている。
種子植物門	キク科	イガオナミミ	<i>Xanthium orientale</i> L. subsp. <i>italicum</i> (Moretti) Greuter			●		
種子植物門	キク科	オオオナミミ	<i>Xanthium orientale</i> L. subsp. <i>orientale</i>		総合その他	●		吉野川以北の各地
種子植物門	レンブクソウ科	サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i> Ker Gawl. var. <i>awabuki</i> (K.Koch) Zabel				●	奈良盆地周辺
種子植物門	スイカズラ科	ノヂンヤ	<i>Valerianaella locusta</i> (L.) Laterr.			●		吉野川以北の各地
種子植物門	スイカズラ科	ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i> Thunb.				●	県内の生育個体は逸出起源と考えられる。
種子植物門	ウロギ科	ヒメウロギ	<i>Eleutherococcus sieboldianus</i> (Makino) Koidz.			●		2010年に明日香村和森で野生化が確認されている。
種子植物門	ウロギ科	ウチワゼニクサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> Thunb. var. <i>triradiata</i> (A.Rich.) Uernald			●		1987年に兵庫県淡路島で見いだされた。県内では2012年に奈良市で確認されている。
種子植物門	セリ科	ノハラジャク	<i>Anthriscus scandiaca</i> (F.Weber) Mansf.			●		1969年に香川県で見いだされた。県内では2000年に御所市で確認されている。
種子植物門	セリ科	コエンドロ	<i>Coriandrum sativum</i> L.			●		薬用植物として平安時代から栽培されてきた。近年も香辛料とするために家庭で栽培されており、しばしば逸出する。1988年に安堵町、2004年に天理市で確認されている。
種子植物門	セリ科	マツバゼリ	<i>Cyclospermum leptophyllum</i> (Pers.) Sprague ex Britton & P.Wilson			●		

(2) 記録種

■鳥類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
鳥綱 スズメ目	カユブチウ科	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i> (Linnaeus, 1758)			●		

■爬虫類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
爬虫綱 カメ目	インガメ科	ミナミイシガメ	<i>Mauremys mutica</i> (Cantor, 1842)		総合その他		●	
爬虫綱 カメ目	インガメ科	マレーハコガメ	<i>Cuora amboinensis</i> (Daudin, 1802)			●		
爬虫綱 カメ目	インガメ科	カスピイシガメ	<i>Mauremys caspica</i> (Gmelin, 1774)			●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	ミシシッピチズガメ	<i>Graptemys kohnii</i> (Baur, 1890)		定着予防そ の他	●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	キタニセチズガメ	<i>Graptemys pseudogeographica</i> (Cray, 1831)		定着予防そ の他	●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	ハナガメ	<i>Mauremys sinensis</i> (Gray, 1834)		定着予防そ の他	●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	アラバマアカハラガ メ	<i>Pseudemys alabamensis</i> Baur, 1893		定着予防そ の他	●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	テネシークーター	<i>Pseudemys concinna</i> <i>hieroglyphica</i> Gray, 1856		定着予防そ の他	●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	フロリダアカハラガ メ	<i>Pseudemys nelsoni</i> Carr, 1938		定着予防そ の他	●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	キバラガメ	<i>Trachemys scripta scripta</i> (Schoepff, 1792)			●		
爬虫綱 カメ目	ヌマガメ科	カンバーランドキミ ガメ	<i>Trachemys scripta troostii</i> (Holbrook, 1836)			●		
爬虫綱 カメ目	カミツキガメ科	ホクベイカミツキガ メ	<i>Chelydra serpentina serpentina</i> (Linnaeus, 1758)	●	総合緊急	●		
爬虫綱 カメ目	スッポン科	シヤンハイハナスッ ポン	<i>Rafetus swinhoei</i> Gray, 1873			●		

■魚類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
条鰭綱 ガー目	ガー科	ガー科の一種	<i>Lepisosteidae</i> gen. sp.		定着予防そ の他	●		狭沢池
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i> (Valenciennes, 1844)		総合その他	●		
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	コクレン	<i>Aristichthys nobilis</i> (Richardson, 1845)		総合その他	●		
硬骨魚綱 コイ目	コイ科	キンギョ	<i>Carrasius auratus auratus</i> (Linnaeus, 1758)			●		飼育品種。奈良県下では、た め池等の半自然環境下で粗 放的に養殖されている。
硬骨魚綱 チマヅ目	アメリカチマヅ科	チャンネルキョウトフイ ツシユ	<i>Ictalurus punctatus</i> (Rafinesque, 1818)	●	総合緊急	●		
硬骨魚綱 サケ目	アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i> (Temminck and Schlegel, 1846)				●	県外(琵琶湖)産種苗
硬骨魚綱 カダヤシ目	カダヤシ科	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i> Peters, 1859		総合その他	●		
硬骨魚綱 スズキ目	カラスミ科	ジルティラピア	<i>Tilapia zillii</i> (Cuvier, 1848)		総合その他	●		

■昆虫類

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
昆虫綱 ゴキブリ目	ゴキブリ科	チュウトウゴキブリ	<i>Blatta lateralis</i> (Walker, 1868)			●		大和郡山市に記録あり
昆虫綱 チョウ目	アゲハチョウ科	ホソオチョウ	<i>Saricinus montela</i> Gray, 1852			●		
昆虫綱 チョウ目	シジミチョウ科	クロマダラシジミ	<i>Chilades pandava</i> (Horsfield, [1829])				●	

■その他無脊椎動物

科より 上位の分類	科名	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
渦虫綱 三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカウズムシ	<i>Girardia dorotocephala</i> (Woodworth, 1897)			●		大和川水系で記録されているが、定着したという情報は無い。

■維管束植物

科より 上位の分類	科名 【APG】	種名(和名)	種名(学名)	特定 外来 生物	環境省の 外来種 区分	由来		備考
						国外 外来	国内 外来	
羊歯植物門	サンショウモ科	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i> D.S.Mitch.		総合重点	●		観賞用に栽培される。温暖な地域では逸出し野生化。県内では橈原市瀬瀬池で確認された記録がある。
種子植物門	オモダカ科	ミズヒナゲシ	<i>Hydrocleys nymphoides</i> (Willd.) Buchenau			●		アクアリウムなどからの逸出による場合があるが、越冬には水温5℃以上が必要。2006年に斑鳩町で確認されている。